

—みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜—

# 横浜みどりアップ計画5か年の評価・提案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2023 年度報告書

案

【抜粋】

横浜みどりアップ計画市民推進会議

2024 年 ○月



## 目 次

1	はじめに .....	1
2	横浜みどリアップ計画と市民推進会議 .....	2
	(1) 横浜みどリアップ計画	
	(2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議	
3	市民推進会議の活動実績 .....	5
	(1) 活動の概要	
	(2) 活動の詳細内容	
	①市民推進会議（全体会議）	
	②施策別専門部会	
	③広報・見える化部会	
	④調査部会（現地調査）	
4	横浜みどリアップ計画 5か年の評価・提案 .....	15
	◆計画の体系	
	◆各計画の柱のハイライト	
	◆評価・提案の概要	
	(1) 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む .....	20
	施策1 樹林地の確実な保全の推進	
	施策2 良好な森を育成する取組の推進	
	施策3 森と市民とをつなげる取組の推進	
	(2) 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる .....	28
	施策1 農に親しむ取組の推進	
	施策2 地産地消の推進	
	(3) 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる .....	38
	施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進	
	施策2 緑や花に親しむ取組の推進	
	(4) 効果的な広報の展開 .....	46
	市民の理解を広げる広報の展開	
5	市民推進会議委員名簿 .....	52
6	市民推進会議委員からのコメント .....	55
7	市民推進会議広報誌「Yokohama みどリアップ Action」、 「森づくり体験会」の案内チラシ .....	56

## 4 横浜みどりアップ計画 5か年の評価・提案

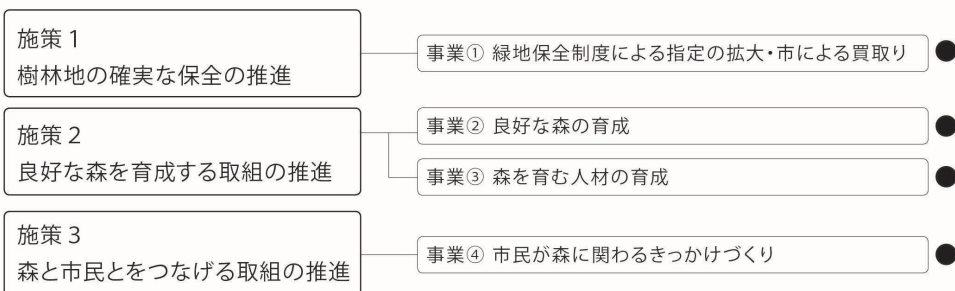
市民推進会議では、横浜みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む(「森を育む」)」、「市民が身近に農を感じる場をつくる(「農を感じる」)」、「市民が実感できる緑や花をつくる(「緑をつくる」)」の施策と、横浜みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「広報・PR」について、現地調査で活動団体などからいただいた意見も踏まえて、評価・提案を行いました。

なお、横浜みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた用途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さまが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・提案を行いました。

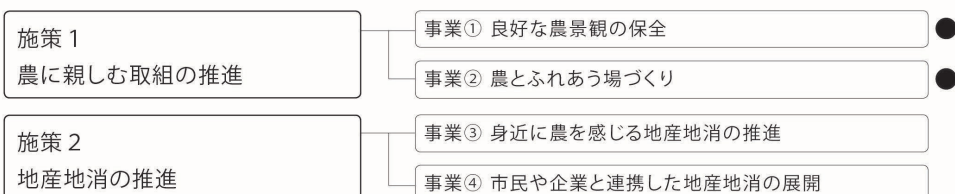
### ◆計画の体系

●：横浜みどり税を充当している事業・取組

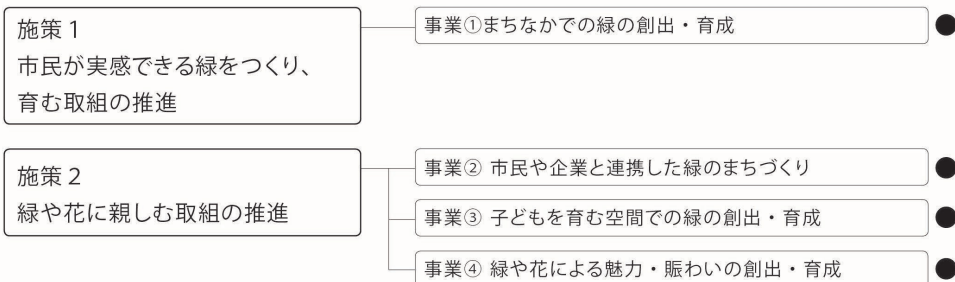
#### 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



#### 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



#### 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる



#### 効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

## ◆各計画の柱のハイライト

2023年度の実施状況について、これまでの実施状況とあわせて振り返ります。

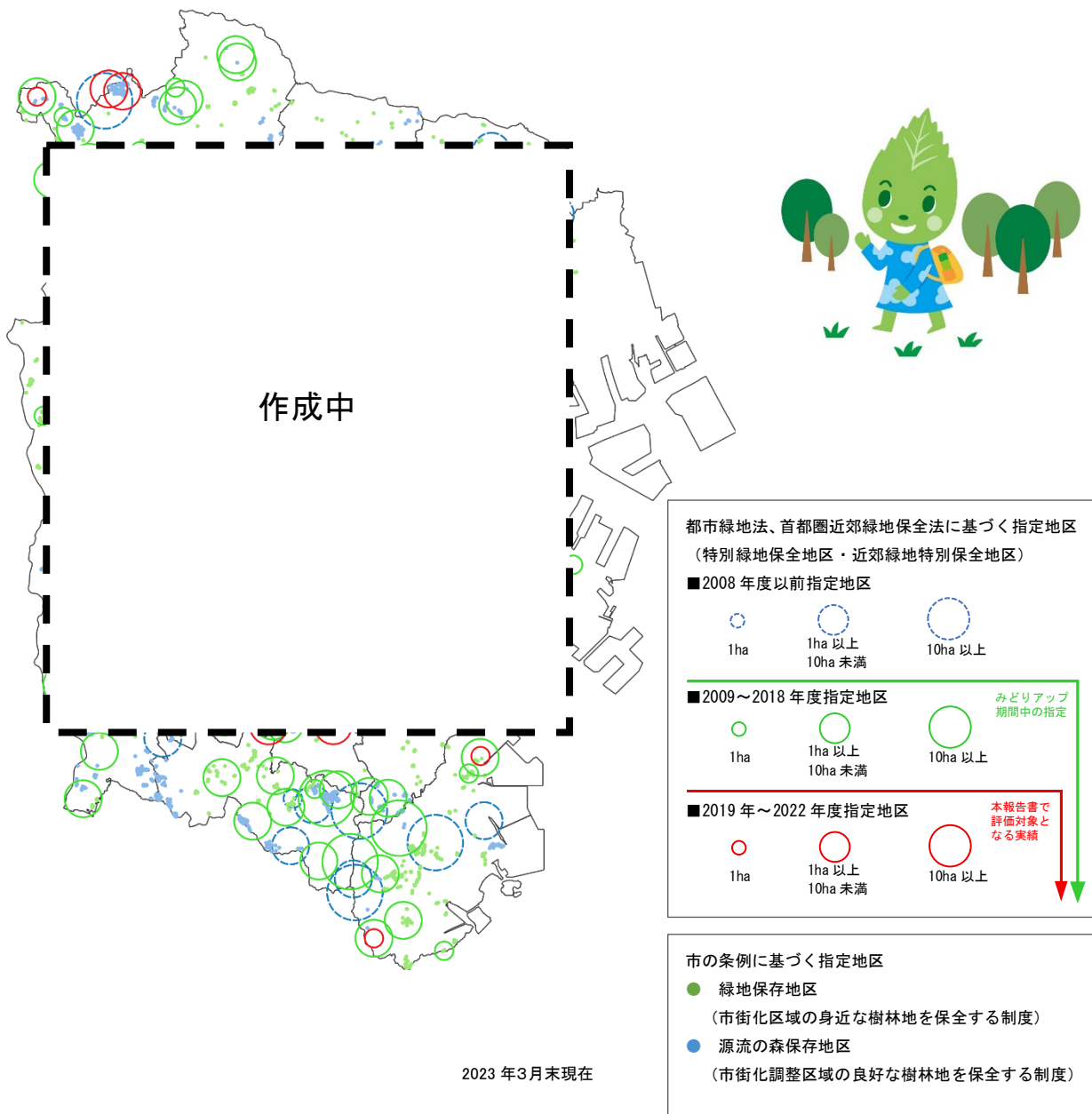


### 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

#### 緑地保全制度による指定の拡大が進んでいます

特別緑地保全地区などの緑地保全制度による指定は、緑のネットワークの核となるまとまりのある樹林地を中心に土地所有者へ働きかけを行い、2009年度から2023年度の15年間で約〇〇ha、2023年度は〇〇ha指定されました。

#### <緑地保全制度による指定の状況>







## ◆評価・提案の概要

「計画の柱1:市民とともに次世代につなぐ森を育む」について

樹林地の確実な保全の推進に関しては、コロナ禍により、土地所有者との面会が制限され指定の働きかけに支障が生じるなど、難しい対応を迫られた5年間でしたが、樹林地所有者への説明機会を増やすなどの工夫を行いながら進めることができています。次の5年間は、土地所有者への働きかけを積極的に行い、目標を達成することを期待します。

良好な森を育成する取組の推進のうち、樹林地維持管理助成事業に関しては、助成対象を拡充するなど土地所有者のニーズに柔軟に対応した結果、5年間の実績が目標を上回ったことは大きな成果です。人材育成については、「森づくり体験会」の拡大や、「よこはま森の助っターズ」のような新しい活動が始まりました。今後も、「よこはまの森ニュースレター」を始めとした情報提供に努め、市民の活動や楽しみの幅を広げてください。

森と市民とをつなげる取組の推進について、コロナ禍によりイベント実施を制限せざるを得ない状況が長く続きましたが、森の楽しみづくりに関するイベントの実績が目標を大きく上回る成果を挙げています。今後も、事業者向けのCSR活動など、更なる事業の展開を期待します。

なお、対象樹林地の小規模化など、新規指定及び買取りに関する課題や、既存樹林地の管理及び活用に関する課題があることから、各施策ごとではなく、横断的な視点から課題解決の検討を進めてください。

「計画の柱2:市民が身近に農を感じる場をつくる」については、〇〇。

「計画の柱3:市民が実感できる緑や花をつくる」については、〇〇。

「効果的な広報の展開」については、〇〇。



## (1)計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

### 施策1 樹林地の確実な保全の推進

#### 事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

みどり税

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援する必要があります。そこで、緑地保全制度に基づく指定により土地所有者へ優遇措置を講じることで、樹林地を保全します。

また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応します。

#### ●実績

項目	2023年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り				
緑地保全制度による新規指定	60ha	11.7ha	156.5ha	300ha
土地所有者の不測の事態等による土地の買取り	(想定)22.4ha	3.0ha	70ha	(想定)113ha
保全した樹林地の整備	推進	59か所	371か所	推進



特別緑地保全地区に指定拡大された緑地  
(港南区 野庭・上永谷町特別緑地保全地区)



緑地保全制度により買入れた緑地  
(青葉区 奈良町西ノ谷特別緑地保全地区)

#### 市担当者からのコメント(環境創造局緑地保全推進課)

- ・ 特別緑地保全地区をはじめとした各種制度の指定は、土地所有者の方々に直接お会いし、制度の趣旨やメリット等を説明し、ご納得いただくことから始まります。これまで、大規模な樹林地の土地所有者から順次働きかけを行い、指定にご協力をいただいていたため、働きかけ対象の樹林地面積が小規模化している傾向があります。
- ・ 2020 年度から、コロナ禍により土地所有者との面会が制限され、指定の働きかけに支障が生じていた時期の影響が続いているため、新規指定実績が伸び悩んでいます。そのような状況で、指定面積は、2019 年度 47.2ha、2020 年度 28.9ha、2021 年度 31.9ha、2022 年度 36.8ha、2023 年度 11.7ha、5か年合計では 156.5ha と目標を下回っています。
- ・ 2023 年度は、JA 横浜と連携を強化し、緑地保全制度の指定により受けられる維持管理に関する支援や、固定資産税の減免等の優遇措置について、樹林地所有者に説明する機会を増やしました。
- ・ 都市計画により永続的に緑地を保全する特別緑地保全地区(近郊緑地特別緑地保全地区を含む)は、5年間で新規に13か所を指定し、22か所拡張しました。2023年度は、1か所を拡張しました。
- ・ 樹林地の指定が進むなか、過去に指定の意向がなかった土地所有者への再度の働きかけが増えているため、指定にあたっての調整や課題の検討には時間を要しますが、今後もまとまりのある貴重な樹林地を保全するため、粘り強く事業を進めていきます。

#### ◆施策1についての評価・提案

- ・ 緑地保全制度による樹林地の指定については、働きかけ対象の樹林地面積が小規模化していること、特にこの5年間は、コロナ禍により、土地所有者との面会が制限され指定の働きかけに支障が生じていたことなどの理由から目標を下回る結果となりましたが、JA 横浜との連携強化により樹林地所有者への説明機会を増やすなどの工夫が見られました。今後も、引き続きJA横浜との連携などを通じて土地所有者への働きかけを積極的に行い、目標を達成することを期待します。
- ・ 不測の事態等による買取りは、地権者の申し出があったものに対して引き続き着実に対応してください。
- ・ 樹林地の買取りが進むとともに、管理や活用が課題となっていきますが、まとまりのある貴重な樹林地を保全し、次世代に引き継いでいけるように、引き続き取り組んでください。

## 施策2 良好な森を育成する取組の推進

### 事業② 良好な森の育成

みどり税

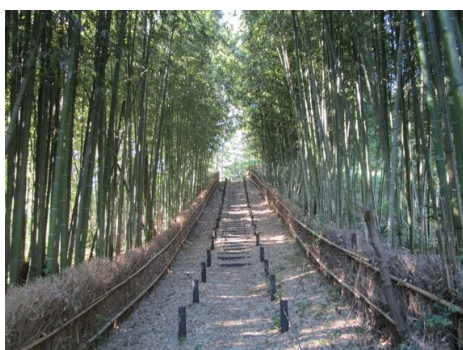
#### ●事業概要(計画書から抜粋)

生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災など、森に期待される多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮し、愛護会や森づくりボランティア、企業等様々な主体と連携しながら、良好な森づくりを進めます。

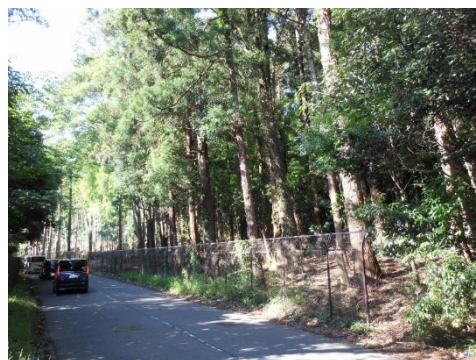
また、樹林地を所有する方が、できるだけ樹林地として持ち続けられるよう、緑地保全制度による指定地における維持管理の負担を軽減するための支援を行います。

#### ●実績

項目	2023年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進				
森の維持管理	推進	保安全管理計画の策定:0か所 維持管理:230か所	保安全管理計画の策定:14か所 維持管理:1016か所	推進
取組(2) 指定した樹林地における維持管理の支援				
維持管理の助成	100件	131件	656件	500件



もえぎ野ふれあいの樹林(青葉区)



新治市民の森(緑区)

森づくりガイドライン等を活用した維持管理



作業前



作業後

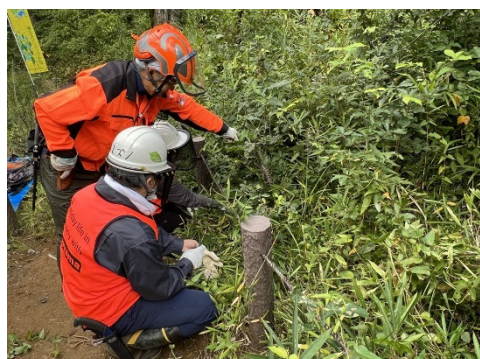
維持管理の助成(栄区)

●事業概要(計画書から抜粋)

市民や事業者と市の協働により森を育む取組を進めるため、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森を育む「人」を育てます。また、森づくり活動を行う団体を対象に、活動に必要な支援を行います。

●実績

項目	2023年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
<b>取組(1) 森づくりを担う人材の育成</b>				
森づくりを担う人材の育成	推進	研修の実施:9回 体験会の開催:6回	研修の実施:60回 体験会の開催:40回	推進
広報誌等での森づくり活動に関する情報発信	4回	2回	18回	20回
<b>取組(2) 森づくり活動団体への支援</b>				
森づくり活動団体への支援	30団体	33団体	165団体	150団体
森づくり活動団体への専門家派遣	4回	1回	17回	20回
チップターの貸出し	推進	1か所	37か所	推進



森づくりを担う人材育成  
森づくり体験会(継続編)の様子  
(青葉区 寺家ふるさとの森)



森づくりを担う人材育成  
森づくり体験会(初級編)の様子  
(港北区 綱島市民の森)



森づくりを担う人材育成  
アドバイザー派遣  
(緑区 長津田宿市民の森愛護会)



森づくりを担う人材育成  
横浜市の森づくり塾  
(緑区 新治市民の森)

#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 樹林地管理においては、樹林地外周部の斜面を中心に安全面を考慮して剪定や伐採などを実施しました。横浜市の樹林地は住宅街に隣接していることが多く、周辺の安全にも配慮しながら森づくりを進めています。
- 森を利用する皆様に、身近な緑を実感していただける、快適性の確保、良好な景観形成など、森に期待される多様な機能が発揮できるよう、引き続き良好な森づくりを進めていきます。森づくりにあたっては、市民の皆様と地域の特性などを踏まえて策定した保全管理計画や森づくりガイドラインに沿って、愛護会など多様な主体と連携しながら実施していきます。
- 樹林地維持管理助成事業は5年間実績で目標を上回っています。樹林地の安全で良好な維持管理のため、また、台風被害による負担を軽減するためにも、今後も計画的な管理を行っていただけるよう、維持管理に助成制度の活用をご案内していきます。
- 現行計画の開始と同時に始まった「森づくり体験会」は、当初は、主に森づくりに関心を持った初心者の方を対象とした体験会でした。2021年度からは、これまで複数回体験会に参加した方を対象とした「継続編」も始まり、年に4回継続して、林床整理や間伐を実施することで、ボランティアの森づくり作業のスキル向上や森づくりによって森の環境の変化を学ぶ機会が得られました。その他、環境活動支援センターと連携して実施している入門講座の中で「実践編」を行い、座学と森づくり活動を一連で学ぶことで、より森づくり活動への理解が深まり、参加者の満足度も高く、その後の森づくり関連事業への参加にも繋がりました。
- 2023年度には、森づくり作業を手伝ってほしい森づくり活動団体と様々な活動場所で興味のある活動に参加したい個人ボランティアを繋ぐ新たな取り組みとして「よこはま森の助っターズ」を開始しました。体験事業の拡充により、ボランティア参加者が増え、森に関心を持ち、様々な形で森を育む市民の活動が広がっていていることを実感しています。
- 「よこはまの森ニュースレター」では研修や支援制度の紹介、愛護会や森づくり活動団体の活動紹介のほか、森づくり活動に必要な安全管理の知識や、森づくり活動を実施した樹林地の林床にどんな変化がもたらされたのかなどの情報提供を行っています。森づくり活動団体やボランティアの皆さんの活動内容や楽しみの幅が広がるような記事を今後も掲載していきます。

## ◆施策2についての評価・提案

- ・ 緑地保全制度による樹林地の指定について、対象樹林地の小規模化やコロナ禍の影響により、難しい対応を求められた5年間でしたが、そのような中でも、14か所の保安全管理計画の策定や日常の維持管理など、良好な森づくりが進められています。森が持つ多様な機能が発揮できるよう、引き続き、様々な主体と連携しながら推進してください。
- ・ 樹林地維持管理助成事業については、2020年度から助成対象を拡充し、柔軟に活用するなど、土地所有者のニーズに柔軟に対応しました。5年間の実績で目標を上回ったことは大きな成果です。引き続き甚大化する台風への対応も含めて、民有地の着実な維持管理が行われ、利用者や周辺住民の安心・安全が守られることを期待します。
- ・ 森づくりを担う人材の育成について、「森づくり体験会」が、コロナ禍においても感染症対策を行いながら開催されたことや、「よこはま森の助っターズ」のような、活動団体と個人のボランティアを繋ぐ取り組みが開始されており、さらなる展開を期待しています。
- ・ 森づくり活動団体への支援については、コロナ禍にも関わらず5か年の実績が目標を上回るなど、大きな成果を上げています。引き続き必要な支援を着実に進めてください。

### 施策3 森と市民とをつなげる取組の推進

#### 事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

みどり税

##### ●事業概要(計画書から抜粋)

横浜の森について理解を深め、さらには行動につなげるため、森に関するイベントや講座の開催により、市民が森に関わるきっかけを提供します。また、市内5か所にあるウェルカムセンターの活用などにより、情報発信等に取り組みます。

##### ●実績

項目	2023年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の楽しみづくり				
市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベントの実施	36回	81回	330回	180回
取組(2) 森に関する情報発信				
ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等	10回	7回	44回	50回



↑よこはま森の楽校  
(保土ヶ谷区 横浜国立大学)

(緑区 横浜創英大学)→



森の中のプレイパーク  
(立町みはらし公園、神奈川図書館)



森の伝え手講座  
(保土ヶ谷区環境活動支援センターほか)



ウェルカムセンター(企画展)  
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)



ウェルカムセンター(ガイドツアー)  
(青葉区寺家ふるさと村四季の家)



#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 森の楽しみづくりとして、市内各地にある樹林地や緑を活用した自然観察イベント等を実施しました。森の楽校のキャンパスイベント及び市内小学生を対象に図書館及び公園で実施したイベント(森の中のプレイパーク)は、コロナ禍の状況を考慮してイベントの中止やオンラインでの開催などの対応を行っていましたが、令和4、5年度は、プレイパーク実施図書館も増え、春と秋に計4館で開催することができました。
- また、事業者向けの CSR 活動支援の体験会を実施し、事業者の皆さんにも横浜の森について理解を深め、活動に関わっていく機会を提供しました。
- 憩いの場としての市民の樹林地に対する関心は高まっており、これまで関心の無かった方にも樹林地を訪れてもらう機会が増えています。この機会を捉えて、森の楽しみ方を伝え、親子を中心に「横浜の森ファン」を増やすことで、利用マナーや、みどりアップ計画への理解や協力を得ていきたいと考えています。
- ウェルカムセンターで開催する樹林地や緑を活用した自然観察イベントについてはリピーターによる人気がある一方で、新規の参加者が少ないといった課題があります。多くの方に市内にある森の存在や魅力を知ってもらうためにも、幅広い層に伝わる効果的な取組や広報手段について検討していきます。

### ◆施策3についての評価・提案

- ・ イベントの実施については、コロナ禍により制限せざるを得ない状況が長く続きましたが、「市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベント」では、2023年度及び5か年実績とも、目標を大きく上回っていることは大きな成果です。
- ・ ウェルカムセンターでの自然観察イベントについては、新たな参加者を増やすために、まずは、「横浜の森ファン」を増やしていく必要があります。そのためには、森に関する行事については、各区役所や学校、大学生との連携を進めるなど、更なる検討を行ってください。検討にあたっては、単にファンを増やすだけでなく、訪れる方が安心・安全に森を利用するための、基本的な利用マナーの周知等も合わせ検討されることを望みます。
- ・ 事業者向けのCSR活動をさらに広げ、企業と連携した様々な森の保全活用を一層推進してください。

#### 「森を育む」施策を検討する部会 部会長コメント

.....

望月 正光

## 6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、緑について日ごろ各委員が感じたことについて、委員の皆さまからもコメントをいただきました。

委員ごとにコメントをいただきます。